

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

県立玄洋高等学校

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	福岡県立玄洋高等学校 1・2年生 202名 教職員 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (ボランティア活動) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (福岡マラソンボランティア) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	ボランティア活動を通して、行政や地域の人々との交流を持つことで、自分の将来を考える機会とする。
5 取組内容	<p>福岡マラソン大会のボランティア参加を行った。当日は本校1・2年が参加し、「給水所」にて水やスポーツドリンクの提供、バナナなどの軽食の提供を行った。また、ランナーが利用する「トイレ」の管理などを行った。本校生徒は、福岡マラソン大会ボランティアスタッフジャンパーを着用し、本校の応援幟「玄洋高校2020年東京オリンピック・パラリンピックを応援します」を作成して参加した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

6 主な成果	福岡マラソン大会のボランティアに参加した生徒は、本校運動部に所属している生徒が多く、ランナーから「ありがとう」などの感謝の言葉をいただいたことで、「来年度も参加したい」「ほかのボランティア活動にも参加したい」という思いを持ったり、頑張っているランナーの姿を見て「自分も部活動を頑張りたい」という思いを持つことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	福岡マラソン大会のボランティア参加については、高校生が取り組めるボランティアの仕事について主催者と打ち合わせを行った。大会コースが本校の正門前ということもあり、当日の交通規制がある中で生徒が円滑にボランティアに参加するための連絡調整に時間がかかった。 また、このような大会がいかに、ボランティアの人たちの力で成り立っているかを実感できた。
8主な課題等	休日に行われることで、引率教員へ確認事項やボランティア参加生徒への事故防止や保険への加入の調整が必要であった。
9来年度以降の実施予定	来年度以降も福岡マラソン大会ボランティアへ積極的に参加していきたい。